

経営比較分析表（平成30年度決算）

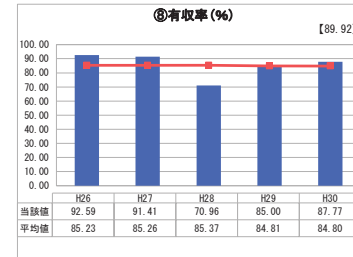
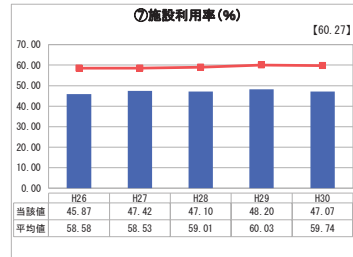
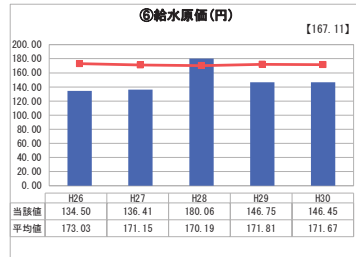
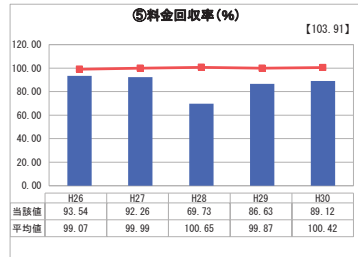
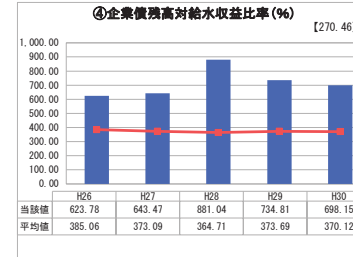
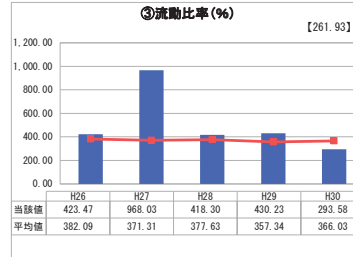
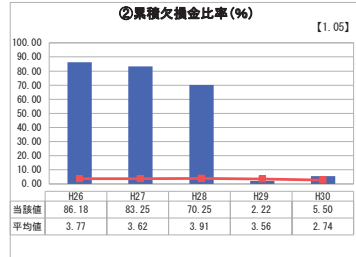
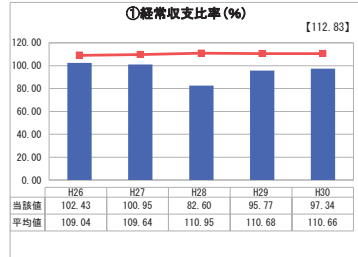
熊本県 益城町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	51.66	95.73	2,597	

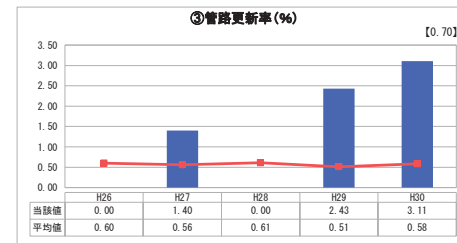
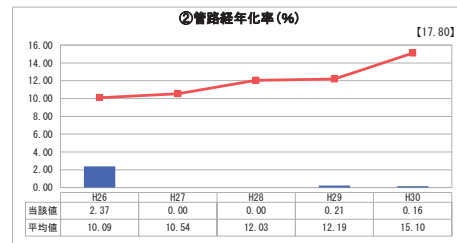
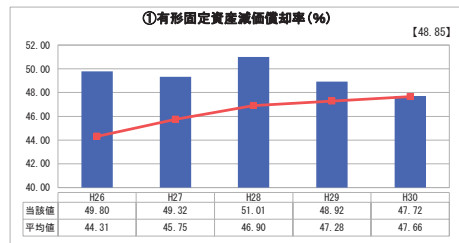
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,967	65.68	501.93
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
31,434	20.53	1,531.13

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は前年度比としての変動は少ないが、類似団体平均と比較して下回っています。令和元年度に水道料金を改定したため、次年度からの改善が見込まれます。
 ②累積欠損金比率はH29以降平均値に近い数値まで減少しています。令和元年度に水道料金を改定したため、次年度以降も改善が見込まれます。
 ③流動比率は前年度比で平均値を下回っていますが、流動資産は流動負債を上回っています。
 ④企業債残高対給水収益比率は前年比が減少となっています。H28熊本地震時の収益減少から回復して、料金改定も行ったため、次年度以降も改善が見込まれます。
 ⑤料金回収率は平均値を下回っていますが、料金改定の次年度以降に改善が見込まれます。
 ⑥給水原価は平均値より安価な状況が継続しています。
 ⑦施設利用率は変動が少ない状況です。現状が継続すると見込まれます。
 ⑧有収率は平均値を下回っています。漏水調査、老朽管の計画的更新を行い、改善を図る必要があります。

2. 老朽化の状況について

熊本地震からの復旧工事で送配水管、水源地等の更新が行われました。今後も復興事業による配水管更新に併せて計画的に管路、施設を更新します。

全体総括

大規模災害を経験し、町を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。全国的に水道事業が抱える問題もありますが、広域連携を行い、安心安全な水道供給を継続して、経営健全化の施策を検討します。